

アライプロバンス

中小規模の物流施設ブランドを展開へ

西東京エリアで新築を計画

アライプロバンス（本社・東京都墨田区、新井太郎社長）は20日、中小規模の物流ニーズを対象とした物流施設ブランド「HACOSTA（ハコスタ）」を立ち上げたと発表した。

同社はこれまで、延床面積約3万3000㎡の「アライプロバンス浦安」や約8万6000㎡の「アライプロバンス葛西」を開発・運営してきた。葛西には最小約1160㎡の小区画フロアがあり、物流事業者に加え、ECや建設関連、リースなど多様な業種が入居している。こうした事業展開のなかで、中小規

模の物流拠点にニーズがあると判断したことから、「HACOSTA」の開始を決めたもの。

商品の保管や配送、倉庫と事務所を併せ持つ営業拠点、都市部へのラストワンマイル配送など、多様な使い方に寄り添った拠点開発を目指す。新築物件では、車両の出入りや荷役の導線、倉庫や事務所の配置など、使いやすさを重視して設計を計画。再生物件では、立地と建物の個性を活かして改修し、機能や外観も一新する。

同ブランドではすでに「HACOSTA 浮間」の再生・販売

を完了済みであるほか、リニューアルを終えた「HACOSTA 立川」を販売中。さらに西東京エリアにおいて、配送拠点としての利用を想定した新築計画を進めている。



西東京エリアの新築物件（完成イメージ）

荷主企業・物流事業者を1冊に「物流総覧」

<http://cargo-news.co.jp/book/131>